

研究課題名	全国多施設院外心停止レジストリデータを用いた初期波形 Asystole の院外心停止患者の蘇生処置と転帰の経時的変化の解明
研究責任者名	広島大学病院集中治療部 学術研究員 石井潤貴
研究期間	実施許可日 ～ 2025 年 3 月 31 日
対象者	2014 年 6 月 1 日 ～ 2020 年 12 月 31 日の間に、日本救急医学会多施設共同院外心停止レジストリ（JAAM-OHCA レジストリ）参加施設に搬送された内因性院外心停止（OHCA）で初期波形が Asystole であったすべての患者さん
意義・目的	初期波形心静止（Asystole）の院外心停止患者の転帰は他の初期波形患者と比較して転帰良好が期待しにくく、環境の変化により容易に蘇生行為の内容や転帰自体が変化しうると考えられます。これまでも非ショック適応リズムの OHCA 患者の転帰に関して、ガイドライン変更を含む経時変化の報告、新型コロナウイルス感染症流行前後での高齢 OHCA 患者の転帰の違いの報告は存在していますが、初期波形 Asystole 症例に着目した治療内容の経時変化や、経時変化の転帰への影響について解析した大規模な報告は存在しません。また、この点に関し JRC 蘇生ガイドライン 2020 の影響についても明らかではありません。本研究では我が国における初期波形 Asystole の院外心停止患者に対する蘇生処置の経時的変化と転帰への影響を評価することを目的とします。
方法	本研究室は日本救急医学会多施設共同院外心停止レジストリ（JAAM-OHCA レジストリ）に参加し院外心停止症例データを登録しています。本レジストリは心停止症例の蘇生に関わるデータを収集し客観的な検証を行うことにより、心停止例の救命率を向上させることを目的としており、2014 年より 6 万例を超える心停止症例のデータが蓄積しています。本研究では日本救急医学会より JAAM-OHCA レジストリデータの郵送で提供を受け、解析することにより初期波形 Asystole の院外心停止症例の蘇生行為や転帰の変遷を明らかにします。なお提供されるデータには個人が特定できる情報は含まれていません。利用開始予定日：本学における実施許可日：2023 年 5 月 17 日以降
共同研究機関	ありません（広島大学より外部へ提供することはありません）
研究の実施体制（※分担機関、試料・情報の提供機関等がある場合）	研究代表者 広島大学病院集中治療部 特命助教 石井潤貴 既存試料・情報の提供のみ行う機関 一般社団法人日本救急医学会 OHCA 特別委員会 責任者名 田上 隆
試料・情報の管理責任者	広島大学病院集中治療部 学術研究員 石井潤貴
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心くだ

さい。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

広島大学病院集中治療部

学術研究員 石井 潤貴

連絡先 TEL：082-257-5456

E-mail：ishii824@hiroshima-u.ac.jp